

# 救 急 部

## 1 構 成 員

	平成22年3月31日現在	
教授	1人	
准教授	1人	
講師（うち病院籍）	1人	（ 1人）
助教（うち病院籍）	4人	（ 3人）
助手（うち病院籍）	0人	（ 0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人	
医員	0人	
研修医	0人	
特任研究員	0人	
大学院学生（うち他講座から）	0人	（ 0人）
研究生	0人	
外国人客員研究員	0人	
技術職員（教務職員を含む）	0人	
その他（技術補佐員等）	1人	
合 計	8人	

## 2 教員の異動状況

青木 克憲（教授）	（H14. 11. 16.～現職）
吉野 篤人（准教授）	（H17. 6. 1.～現職）
望月 利昭（講師）	（H21. 4. 1.～現職）
松下 明生（助教）	（H20. 4. 1.～現職）
白木 克典（助教）	（H20. 4. 1.～現職）
上原 隆志（臨床助教）	（H21. 4. 1.～H21. 9. 30.）
澤柳 智樹（臨床助教）	（H21. 10. 1.～H22. 3. 31.）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成21年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	0編	（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編	（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編	（ 1編）

(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	3編 ( 3編)
そのインパクトファクターの合計	0.00

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松下明生, 中村浩淑。甲状腺ホルモンの作用機構。総合臨床 58: 1499 - 1505, 2009.  
インパクトファクターの小計 [0.00]

### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 望月利昭：心肺蘇生と脳保護，天羽敬祐（編）麻酔科学レビュー2010，総合医学社，東京

### (5) 症例報告

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

- (1) 小林 賢輔，望月利昭，小林充，秋永泰嗣，川島裕也，佐藤重仁（2009）産褥期に癒着胎盤が疑われ全身麻酔下に単純子宮全摘術を行った1例 日本臨床麻酔学会誌 29: 3. 305-10
- (2) 浦岡 雅博，望月利昭，佐藤重仁（2010）腹部大動脈ステント挿入術中に心静止をきたした一例 蘇生 29: 1. 28-32
- (3) 小林充，望月利昭，中島芳樹，石井康博，佐藤重仁（2010）覚醒剤中毒に見られたガス壊疽症例の周術期管理経験 臨床麻酔 34: 1. 45-8

インパクトファクターの小計 [0.00]

## 4 特許等の出願状況

	平成21年度
特許取得数（出願中含む）	0件

## 5 医学研究費取得状況

	平成21年度
(1) 文部科学省科学研究費	0件 ( 0万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件 ( 0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 0万円)
(4) 財団助成金	0件 ( 0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 ( 0万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 ( 0万円)

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 望月利昭：どうする麻酔中の徐脈，頻脈，アナフィラキシー，心停止，第29回日本臨床麻酔学会リフレッシャーコース 2009.10.31 浜松市

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成21年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成21年度
産学共同研究	0件

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. BLS啓発活動

BLS (Basic Life Support, 一次救命処置) は、日常生活の中で突然生じる健康危機に市民が即座に判断し、とるべき行動をまとめたプログラムである。われわれは、浜松医大医学部附属病院の医療従事者に限らず、浜松市内、あるいは、静岡県内のすべての医療従事者を対象として、BLS啓発活動を進めている。また、医療従事者のみならず、学童生徒、中高生、大学生、一般市民にもその啓発活動に努力している。

### 2. 救急初療技術の標準化に関する啓発活動

ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support), ICLS (Immediate Cardiovascular Life Support), JPTEC (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care), JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) で構成される救急初療技術の標準化に関する啓発活動を静岡県内

で精力的に進めている。

### 3. 東海地震における市民との医療連携

来るべき東海地震に備えて、公的救助を期待できない発災直後（phase0）における市民との医療連携のあり方を追求している。浜松市各自治会自主防災隊員の現場救護、トリアージ、搬送手段の啓蒙活動を訓練を通じて実践している。また、静岡県西部地方の磐田市、御前崎市、浜松市天竜区の理療従事者を対象として、医療救護所におけるトリアージおよびトリアージ以後の初療に関する訓練と技術の標準化を追求している。

### 4. 救急医療体制の評価

病院前医療における救命リレーを適確に進めるために、救急隊員のメディカルコントロール、搬送症例の事後検証、浜松方式輪番制病院群における救命救急センターの役割、浜松市・浜北市全救急隊員による浜松医科大学救急部門の全体的評価などの検討を行っている。全国2番目の面積となった新浜松市の広域救急医療体制のあり方が今後の課題である。

### 5. 新臨床研修制度における研修医の評価と救急部スタッフに対する逆評価

新臨床研修制度の研修医について、救急医療研修の到達度評価、救急部スタッフによる研修医の評価とフィードバック、研修医による救急部スタッフの逆評価を行っている。救急医療の現場は教育的な環境であり、教員の教育技法を高める必要がある。分かりやすい指導、確実に技術を習得できる指導、タイミングを見て適切な形成的な評価ができることが必須である。診察、診断、治療の各プロセスにおいて教育効果を逃さない優れた指導医の養成プログラムを検討している。

### 6. 平成21年度の社会貢献事業

- 1) 学内での救急医療セミナー、心肺蘇生講習会、緊急被ばく訓練、災害搬送訓練など6件
- 2) 国や地方公共団体関係の委員会等への参加 18件
- 3) 地域医師会等の主催する研究会での講演 11件
- 4) 地域の医療関係者を対象にした講習会の開催 66件